

2010年2月19日

各 位

## ヘッジホッグ経路阻害剤「RG3616」のライセンス契約締結について

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／社長：永山 治〕（以下、中外製薬）は、F. ホフマン・ラ・ロシュ社〔本社：スイスバーゼル市／CEO：セヴリン・シュヴァン〕およびジェネンテック社〔米国カリフォルニア州／CEO：Ian T. Clark〕が、進行性基底細胞がん、転移性大腸がん、進行性卵巣がんを対象として海外で臨床開発を行っているヘッジホッグ経路阻害剤「RG3616」について、ライセンス契約を締結しましたのでお知らせいたします。なお、本契約の締結により中外製薬は、「RG3616」の日本における独占的開発・販売の実施権を許諾され、その対価として契約一時金およびマイルストーンをロシュ社に支払います。

中外製薬は、2010年後半に国内での第 I 相臨床試験を開始し、大腸がんおよび卵巣がんを効能・効果として日本における開発を行うことを計画しております。その他の適応症については、ロシュ社およびジェネンテック社における臨床試験の進捗状況ならびに結果を勘案し、効能・効果追加を検討する予定です。

これまで中外製薬は、画期的な抗がん剤の販売を通じて医療への貢献を果たしてきました。今回、製品ポートフォリオにファーストインクラスの薬剤として期待されるヘッジホッグ経路阻害剤「RG3616」が加わることにより、オンコロジーのトップ製薬企業である当社の強みがより一層増強され、がん治療の更なる発展に貢献できるものと考えています。

中外製薬は今後も引き続き、ロシュ社、ジェネンテック社の研究・開発資源を有効的に活用し、画期的新薬を創出することによりアンメットメディカルニーズの解決に取り組んで行く所存です。

以上

## 【ご参考】

### RG3616 について

「RG3616」は、ヘッジホッグ経路を阻害する経口の抗がん剤 (Curis 社コード: GDC-0449) で、Curis 社 [米国マサチューセッツ州 / President and CEO : Daniel R. Passeri] との提携契約の下、ジェネンテック社により開発が行われています。ヘッジホッグ経路は胎生期の形態形成に関わる重要な因子として同定され、その後の研究において様々ながんの発生・進展に関与していることが明らかにされつつあります。「RG3616」は、細胞膜表面にある膜貫通型蛋白に結合し、細胞内シグナル伝達を阻害することによってがん細胞の増殖を抑制する薬剤であり、既存の抗がん剤にはない新規の作用メカニズムを持つファーストインクラスの薬剤として期待されています。

### Curis 社について

Curis 社は、シグナル伝達経路に関する革新的な創薬技術を応用し、がん領域における新たな低分子医薬品の開発に取り組む製薬企業です。Curis 社は、がん領域において自社での医薬品開発の取り組みを拡大し、シグナル伝達経路に関して蓄積された経験に基づいて次世代のがん治療を開発しています。Curis 社に関する更に詳しい情報は、[www.curis.com](http://www.curis.com) をご覧下さい。